

# 9 福岡宣言

都市問題解決に向けた「アジア太平洋地域の都市の連携とネットワークの構築」をめざして、第3回アジア太平洋都市サミットが、1998年7月11日（土）と12日（日）に日本国・福岡市で開催された。このたびの会議では、太平洋地域の主要都市であるオーストラリア・ブリスベン市とアメリカ合衆国・ホノルル市の新たな参加を歓迎し、12カ国・地域、23都市の首長らの参加となって過去最多の出席者を得るに至った。

また、基調講演として前国連事務次長の明石 康氏の講話をいただくとともに、国際連合の協力を得て、活発かつ有意義な意見交換を行うことができた。

我々は、1994年、1996年の2回のアジア太平洋都市サミットの会議を通じ、参加都市間の相互理解を深め、「face to face」の関係の強化と交流の重要性を確認してきた。第3回目の会議では、これまでの成果を踏まえ、多都市間相互協力に取り組む必要があるとの認識に立ち、都市が直面する様々な問題解決に向けた方策や将来に向かった都市連携のあり方についての議論が深められた。

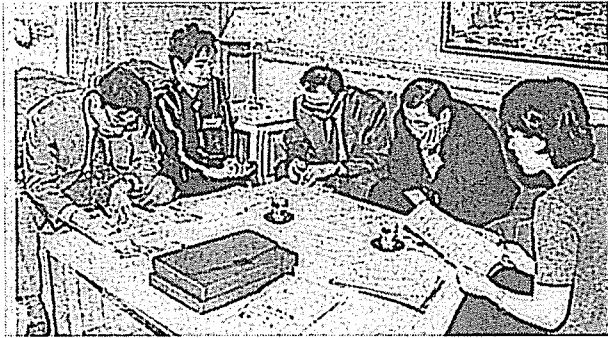
第3回アジア太平洋都市サミットの閉会にあたり、今回の会議で得られた共通の認識と成果を未来につなげるために、ここに「福岡宣言」を行う。

1. アジア太平洋地域の各都市は、近年のめざましい経済成長に伴い、様々な課題を抱えつつも発展を遂げてきた。しかしながら、昨年来のアジアにおける経済危機は社会の不安を惹起し、都市は新たな課題の克服と将来の発展への筋道を問われている。このような危機を打開し、アジア太平洋地域の都市の持続的繁栄を成し遂げるためにも都市間の交流と協力を更に拡大、深化させていくことは肝要である。そして、各都市に対しては、お互いの相違点を理解しつつ、それぞれの都市が有する資源を相互に共有し合おうとする協調と補完の精神が一層求められる。
2. そのためには、国家の垣根を越え、都市と都市とが直接対面して情報の交換・英知の共有・人材の育成などを図るとともに、相互協力のネットワークを構築し、強化することが重要である。
3. 我々が抱えている都市問題には、過去2回のアジア太平洋都市サミットや実務者会議で既に議論された「交通」「環境」以外にも今回のテーマでもある「教育」「保健医療」「上下水道」をはじめとして、多様で多岐にわたる課題が山積している。いずれの課題も複雑に絡み合い、単独での解決は難しく多面的に総合的に解決されるべきであり、その道のりは遠いかもしれない。しかし我々は、解決に向けて日々弛まず地道に取り組む努力を惜しまない。
4. 我々は、ネットワークの証であるアジア太平洋都市サミットを不断のものとし、「face to face」の関係強化の推進とともに、相互扶助・互恵精神に基づき、多くの機会を捉え、かつ、国際連合や関係機関・団体などの協力を得て、多種多様な都市間協力を一歩一歩着実に推進させていく。
5. このため、我々は2年後の2000年に大韓民国・釜山広域市で第4回アジア太平洋都市サミットを開催する。また、都市間協力実施の要として、来年の1999年に第3回実務者会議を福岡市で開催する。

アジア太平洋都市サミットが更に拡充・展開され、その成果が広範な地域に波及し、ひいては来る21世紀に向け、アジア太平洋地域の繁栄と平和に寄与することを念願する。

1998年7月12日 日本国・福岡市にて





福岡市入りし、アジア太平洋都市サミットの事前打ち合わせをする参加都市関係者たち

福岡市入りし、アジア太平洋都市サミットの事前打ち合わせをする参加都市関係者たち

この日は、マレーシアのイポ市とクアラランガイ...

第三回アジア太平洋都市サミット(十一、十二日、福岡市)に参加する海外の十二カ国・地域の十五都市の市長らが十日、空路で続々と福岡市に入ってきた。

参加者ら続々と来福 友好ムード盛り上がる

アジア太平洋都市サミットきょう開幕

福岡市国際企画課の光栄真司主任は「回を重ねるごとに、行政職員同士も顔見知りになり、率直に話ができるようになった。」

釜山広域市長が福岡市を訪問 都市サミット参加へ



福岡市を表敬した安相英・釜山広域市長(右)



福岡市役所を訪れ、桑原敬一市長(右端)と握手を交わす海外からの参加都市代表ら

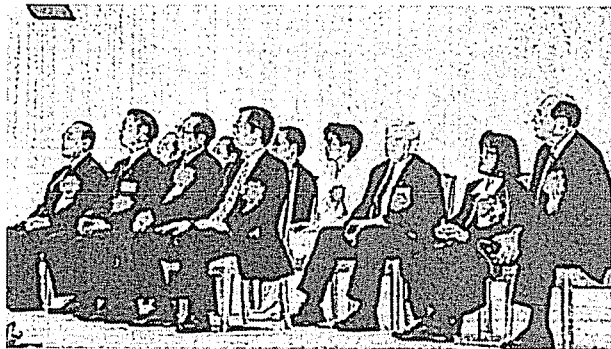
アジア太平洋都市サミット

福岡市で午後開幕

アジア太平洋地域の都長と懇談、同サミットの成市の連携について協議する功に向け協力するてを確

福岡市で開幕した第3回アジア太平洋都市サミットに出席した各都市からの参加者たち

### 都市サミット



# 解決策探る第一歩

## ゴミ、交通…共通課題山積

【解説】交通、ゴミ、人口問題などアジア・太平洋地域の都市に共通する問題を、国境の垣根を越えた連携でどう解決するのか。福岡市で十一日開幕した第三回アジア太平洋都市サミットでは、その具体策を検討する第一歩となる。

### 【二面参照】

過去二回の同サミットは、各都市の首長らが一堂に会し、相互理解を促すことに力点を置いていた。しかし、「顔合わせによる交流はある程度深まった(同サミット事務局)として新たな段階への移行を迫られており、都市間協力の具体策をどう打ち出せるかが今回の課題だ。

その意味でも、四年前に同サミットを主催した福岡市の責任は重い。

同市は、竹やドラム缶を使い、メタンガス発生を抑えるゴミ処分場の技術などを昨年八月に中国・広州市に提供している。さらに、今後にはコンピューター管理による漏水防止システムや節水システムなどについても技術協力が可能で、東南アジアの都市への協力を積極的に進めようとしている。

間近に迫った二十一世紀は、相対的に都市の主体性が重視される都市の世紀」とも言われている。同サミット参加都市がそれぞれの歴史や文化、独自技術やアジア・太平洋地域で「共有し、補完し合う」が、真に考えられる時期にきている。

開幕した「第3回アジア太平洋都市サミット」  
=11日、福岡市内のホテル



### アジア太平洋都市サミット開幕

## 節水技術の連携を検討

きょう「福岡宣言」

アジア・太平洋地域の都市連携の方向を探る第三回アジア太平洋都市サミットが、十一日から三日間の日程で、福岡市博多区のホテル日航福岡で開幕した。今回のテーマは、各都市で深刻化している保健医療や上下水道問題など。十二日に本格的な会議があり、大滝水を教訓に福岡市が蓄積した節水技術を、東南アジア各国の都市づくりに生かす構想などを検討。また、都市間のネットワーク構築などをうたった福岡宣言を採択する方針。【3面に解説】

参加したのは、中国の広

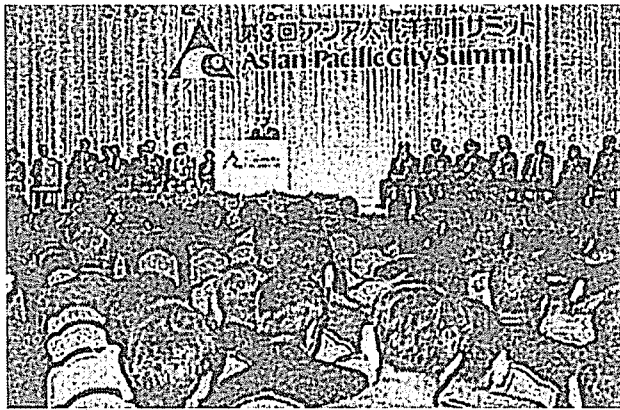
州市、韓国釜山市、マレーシアのイポー市、ニュージーランドのオークランド市をはじめ、フィリピンのマニラ市、ベトナムのホーチミン市、米国のハワイ州のホノルル市など海外の十一カ国・地域の十五都市と、九州各県の真の都市に北九州市を加えた八市。

十一日の開会式で、主催者あいさつに立った桑原敬一福岡市長は「都市間協力という新たな分野を開発していくことが、アジアと太平洋地域の繁栄にとって重要なポイントだ」と強調。

中国・広州市の林樹森市長が「二十一世紀を展望した協力、交流はより重要になっている」と呼びかけた。

この日は、前副理事務次長の明石康氏が基調講演。上下水道の三分科会が協議した後、全体会議を経て福岡宣言を採択する。

福岡市で始まったアジア太平洋都市サミット



## 23代表参加、福岡で開幕

### アジア太平洋都市サミット

第3回アジア太平洋都市サミットが11日、福岡市で始まり、12カ国・地域の23都市の代表が集まった。経済発展に伴い発生する都市の問題を率直に話し合い、相互協力に向けたネットワークづくりもしようとする福岡市の提唱で、1994年に始まった。九州から大分、佐賀など8市の市長らが討

議に加わる。開会式では、明石康・前国連事務次長が「アジア太平洋地域の持続的繁栄」のテーマで基調講演。「アジア太平洋地域は政治的結集が遅れている。各地域の習慣や発想、民族性の違いを、はつきり認識し、その違いを喜び合うような寛大な気持ちで都市の連携を目指す

べきだ」と語った。12日は「次世代教育の取り組み」など3分科会が開かれ、そのあと「都市連携の将来展望」をテーマに全体討議がある。13日は市内で開催中のアジア太平洋子ども会議に参加する児童らとの合同会議を予定している。

## アジア太平洋都市サミット福岡で開幕

アジア・太平洋地域の十二カ国・地域の二十三都市の首長らが一堂に会し、都市問題の解決に向けた相互協力を探る「第三回アジア太平洋都市サミット」が十一日、福岡市内のホテルで開幕した。会期は十三日まで。

テーマは「都市連携の将来展望」。明石康・前国連

事務次長が「アジア太平洋地域の都市の持続的繁栄」と題して基調講演を行った。十二日は分科会を開き、教育、保健医療、上下水道について意見交換する。

参加したのは初めての米国・ホノルル、オーストラリア・ブリスベーンをはじめ、ニュージーランド・オークランド、中国・上海、広州など。国内からは九州七県の県庁所在地と北九州一市から代表がそろった。

Mainichi Daily News July, 13, '98

### Asia-Pacific confab on urban growth opens

FUKUOKA — Delegates from 23 cities in 12 countries in the Asia-Pacific region opened on Saturday a three-day conference in Fukuoka to discuss ways of achieving sustainable urban growth despite the region's current economic and financial difficulties.

Fukuoka Mayor Keiichi Kuwahara, who proposed holding the biennial conference in 1994, said that the Asian crisis raises the importance of pooling resources and information among cities in the region to deal with common challenges.

The Asian-Pacific City Summit, the third of its kind, was attended by representatives from 15 cities overseas, including Brisbane, Australia, and Honolulu, Hawaii, which attended for the first time.

The conference will discuss issues such as rapid urbanization, urban population concentration, water shortage and river pollution in urban areas.

# Officials to address Asia-Pacific urban nightmares

Problems such as faulty water systems will be taken up at the 3rd Asia-Pacific City Summit in Fukuoka.

Asahi Evening News

FUKUOKA—Delegations from 23 cities today were to discuss ways to solve urban problems, such as inadequate medical services and depleted water supply, and how to form networks among the cities.

At the 3rd Asia-Pacific City Summit, mayors and officials this morning were to hold three simultaneously meetings. Topics include education, health care and waterworks system in urban centers.

Delegations from Bangkok, Singapore, the Chinese city of Urumqi and six other cities were to attend on session whose theme is "Future Direction of Education for the Next Generation." In particular, they were to discuss measures to improve the quality of education.

In addition, they were to seek ways to create human ex-

change networks at the municipal-government level.

Another meeting was to focus on health care problems in cities. The participants were representatives from Dalian and Hong Kong in China, Manila and four other cities.

They were to exchange views on how cities can provide better medical services.

They were to make presentations on public medical services in their cities and consider how to establish a system to improve the welfare of the residents.

Waterworks and sewer systems were to be the main topics at the third meeting, which was to include representatives of nine cities including Auckland, Brisbane, Ho Chi Minh City, Honolulu and Kuala Lumpur.

The cities were to discuss how to establish efficient water

supply services in harmony with environmental conservation.

Officials at the Fukuoka city office, which hosted the meeting, said they plan to take measures to cope with urban problems based on the results of the conference.

At the first conference held in 1994, the main topic of discussion was harmony between urban development and human living environment. Officials from 21 cities in the Asia-Pacific region took part.

At the second summit meeting, held in China, delegates from 20 cities focused on urban development in the next century.

Officials for this year's meeting brought up many issues from previous conferences. This time they plan to issue an action plan to cope with such problems, Fukuoka city officials said.

In the afternoon, the delegations were to adopt a joint declaration based on the discussions of the three sessions.

## Asahi to encourage Asia friendship

Asahi Shimbun plans to encourage exchange visits and the sharing of information with people from around Asia as part of a series of events to commemorate its 120th anniversary.

The newspaper will set up Asahi Shimbun Asia Network (AAN) to contribute to promoting stability and prosperity in the region in the next century.

Yasushi Akashi, 67, former undersecretary-general of the United Nations, will chair the preparatory committee that

will decide the operation and management policies of AAN.

The committee will include other eminent people and representatives of Asahi Shimbun.

AAN, which is expected to start operations in October, will be involved in many projects such as joint survey and research programs bringing



ASAHI SHIMBUN  
Akashi

together experts from Japan and overseas. The network will also offer training programs for journalists from other Asian countries.

Akashi, the first Japanese to join the staff of the United Nations, played a significant role in peacekeeping operations in Cambodia and former Yugoslavia.



1999  
ASAHI SHIMBUN  
120th ANNIVERSARY

アジア太平洋都市サミット

# 新しい協力の礎石に

## 明石前国連事務次長が講演

福岡市で十一日開幕した第三回アジア太平洋都市サミットは、日本を含め、十二カ国・地域の二十三都市の首長が都市連携への熱い期待を込めて、意見を交わす。本格的な会議が十二日行われるのを前に、初日は前国連事務次長の明石康氏が「アジア太平洋地域の都市の持続的発展」のテーマで基調講演し、首長らが熱心に聞き入った。



第3回  
アジア太平洋都市サミット  
Asian-Pacific  
City Summit

明石氏は開演の縁を踏まえ「アジア・太平洋地域の中長期的な展望は明るい。地域の政治的結束は、世界の他の地域に比べて著しく進んでいる」と指摘。このため、「アジア太平洋都市サミットが同地域の相互理解と協力の礎石になると期待している」と述べた。

また、明石氏は、都市問題について「人口、環境、水、ごみ問題など、相互に関係しており、総合的な対策が必要。一つの都市だけで解決できるものではない」と述べ、相互に理解と協力を進める重要性を強調した。

### 議論へ熱い期待

桑原福岡市長らあいさつ

の都市の発展に必要だ。今回のサミットが世界平和の発展に貢献できることを期待している。また、明石氏は、都市問題について「人口、環境、水、ごみ問題など、相互に関係しており、総合的な対策が必要。一つの都市だけで解決できるものではない」と述べ、相互に理解と協力を進める重要性を強調した。

いと国際協力の重要性を述べ、他の都市から学ぶべきだと語り、「サミットをきっかけに」と語った。

### アジア太平洋サミット閉幕

12カ国・地域の23都市の代表が参加して、福岡市で開かれていた第3回アジア太平洋都市サミットは最終日の12日、「多様な都市間協力を進める」という福岡宣言を採択して閉幕した。保健医療体制を話し合った分科会では、病原性大腸菌O157など新興感染症の情報を参加都市間で交換し合うことを決めた。

アジア都市サミット  
「福岡宣言」を採択  
交流の重要性強調

福岡市で開かれていた「第三回アジア太平洋都市サミット」は、12日の12日、同市内のホテルでテーマごとの分科会を開き意見交換を行った後、全体会議を開催し、「福岡宣言」を採択し、主要な日程を終えた。

宣言は、昨年来のアジア経済危機を打開し、都市の持続的繁栄を実現するため「都市間の交流と協力をさらに拡大、進めさせていくことが肝要」と、環境を越えた都市間ネットワークの重要性を強調した。次回同サミットは、二〇〇〇年、韓国釜山で開催される予定。

アジア太平洋都市サミット

## 感染症ネット構築へ

### 福岡宣言 協力推進うたい閉幕

アジア・太平洋地域の都市連携をテーマに福岡市で開かれた第三回アジア太平洋都市サミットは、12日の12日、教育・保健医療、上下水道の三科会を全体会議を行い、多様な都市間協力を推進させることをうたった「福岡宣言」を採択し閉会した。また、感染症に関するさまざまな情報を参加都市間で迅速に交換し合う「感染症情報ネットワーク」の構築に向け、協力し合うことを確認した。

感染症情報ネットワークは、アジア・太平洋地域内での人の移動が活発化する中、病原性大腸菌O157など海外では発生が少なく、情報の少ない新たな感染症の発生状況や対応策などについて、サミット参加都市がファクスなどで瞬時に情報交換して感染の拡大を防ぐのが狙い。

また、来年の実務者会議を福岡市で、二年後の第四回サミットは韓国・釜山で開催することを決めた。

# 環境、文化テーマに交流 「こどもサミット」に120人



アジア太平洋地域の十一カ国・地域の子どもら約百十人と、同地域内の都市の代表者十五人による「アジア太平洋こどもサミット」が十三日、福岡市博多区のホテルで開かれた。写真。「第一分科会」がスタートした。同日、同地域内の都市の代表者十五人による「アジア太平洋こどもサミット」が十三日、福岡市博多区のホテルで開かれた。写真。

地域ごとの意見発表で、子どもたちは「歴史ある黄河の水質の悪化を改善するにはならない」と(中国)。「人間は自然とバランスを保つよう、立ち止まって方法を考えるべきだ」と(マレーシア)など環境問題に関する意見を発表した。

これに対し、桑原敬一福岡市長は「大人が夢かさを求めて生産活動をしてきたつが回ってきた。今後は国境を越えて問題に取り組みべきだ」と述べた。

子どもたちは各地域の民族舞踊なども披露。最後に全員で歌をうたい、人種や言葉の違いを越えて平和な社会の実現に協力する思いを確かめた。

# 21世紀へ連携強化

## アジア太平洋都市サミット

### 意見交換 活発に 相互の技術協力推進へ

アジア・太平洋地域の十五カ国・地域十三都市の代表者として福岡市開いた三回目の「アジア太平洋都市サミット」は十三日、三日間の日程を終え、二十世紀向け都市連携推進の成果を盛り込んだ。同地域の持続的な発展のため、相互理解を深めることに加え、お互いに技術協力を進めようとした。積極的な意見交換で十三日の三分科会と全体会議の主な内容を紹介する。



教育をめぐり各都市の取り組みについて話し合った中小科会

【第一分科会・次世代教育】問題提起している「教育」をめぐり、文化的教育が育の取り組む福岡市が目をこらした。中国の広州市 受けやすい面もある。痛本では少子化が深刻な子どもは、親がしつこくして、構うことが、二層もあがねばならない。産産は一人手もモラルが、重要背景は、創造性を教育力がたれ、いじめ、悪いとは、一人一人の生まれ育ちが大切と述べた。

### 民間含め協力態勢を

【都市連携の発展促進】「都市連携の発展促進」がテーマ。過密都市の十カ国・地域の十三都市が参加して福岡市で開催された三回目の「アジア太平洋都市サミット」は十三日、各都市間のネットワークを強化し、それぞれの協力関係を推進する。【第一分科会・保健医療】「第一分科会・保健医療」がテーマ。過密都市の十カ国・地域の十三都市が参加して福岡市で開催された三回目の「アジア太平洋都市サミット」は十三日、各都市間のネットワークを強化し、それぞれの協力関係を推進する。【第一分科会・保健医療】がテーマ。過密都市の十カ国・地域の十三都市が参加して福岡市で開催された三回目の「アジア太平洋都市サミット」は十三日、各都市間のネットワークを強化し、それぞれの協力関係を推進する。

【第一分科会・保健医療】がテーマ。過密都市の十カ国・地域の十三都市が参加して福岡市で開催された三回目の「アジア太平洋都市サミット」は十三日、各都市間のネットワークを強化し、それぞれの協力関係を推進する。【第一分科会・保健医療】がテーマ。過密都市の十カ国・地域の十三都市が参加して福岡市で開催された三回目の「アジア太平洋都市サミット」は十三日、各都市間のネットワークを強化し、それぞれの協力関係を推進する。



# 具体的成果を望む声

## 第3回アジア太平洋都市サミット

第3回アジア太平洋都市サミットが十一、十二の両日、福岡市で開かれ、十一か国・地域、二十三都市の首長らが「都市連携の将来展望」をテーマに討議した。都市問題の解決に向け、サミットの枠組みを通じた具体的な成果を求める声が強まり、日常的、専門的な都市間協力の確立が今後の課題に残された。

### 人口・教育・医療…問題は深刻

「農村から都市への人口」(ベトナム・ホーチミン、タイ・バンコクのティラ、流入は深刻な問題で、インのリー・タン・ハイ第一副市長) フラ整備が重要になってい(副市長)る。都市近郊農村部をどう開発し、流入を食い止めるや、アジアの経済危機対策か、途上国共通の課題として(タイ・バンコクのティラ、サ市長)て他都市の経験に学びたい(副市長)。

「学習の機会として、保健康施設の視察ツアーを組んでほしい」(フィリピン・マニラのホセ・アティエンサ市長)。

「サミットを締めくくる全体会議の場で、切実な問題共通する課題として注目を

を抱える各都市の代表から、サミットのあり方について注目が相次いだ。今回のサミットでは、「次世代教育」「保健医療体制」「上下水道」の三つの分科会が討議が行われた。教育問題は「受験教育が基礎教育の発展を阻害していた反省から、学校での入ったり重視した教育改革を行っている」(中国・広州市、「テクノロジーの発達に適切な人材教育を担っている」(バンコク)といった取り組みが、他都市とされ、上下水道整備では財政源確保のための民間に整備を委託する手法が取り上げられた。

保健医療では、感染症対策についてインターネットやファクスを利用した都市間の情報交換が提起された。都市の取り組みの多寡が、意見交換や具体的な事例の検討が消化不良に終わった。が、全体会議での注ぎ、事前配りをして、討議時間が短縮された。座長の桑原敬一の時間を増やしたい」と、福岡市長は一貫資料を、今後の改善を約束した。

第一回会議の開催から四年。深刻化する都市問題の解決のため、実務担当者間の連絡会議設置や民間関係者の参加など、サミットは新たな枠組み作りに向けた転換期を迎えている。

福岡市で開かれたアジア太平洋都市サミット



# 発信! ASIA

## 都市・農村の広域行政が必要

前国連事務次長 明石 康さん

第3回アジア太平洋都市サミットでは、明石康・前国連事務次長が「必要だ。昨年のインドネシア太平洋地域の都市の持続的繁栄」をテーマに基調講演した。

◇

人口、環境、エネルギー、水、教育と、都市が抱える問題は相互に関連するもので、総合的に解決しなければならない。各都市がバラバラの政策で



決すると同時に、周辺部や農村部も視野に入れた広域行政を考えていかなければ、真の意味での安定と繁栄はない。アジア太平洋地域の諸都市は急激に発展したが、過去の伝統や文化、地域社会の結束が時になおのちで消滅している。消滅や快進を重視した若い人に魅力ある都市と同時に、過去の美しさや伝統を保存し、高齢層にも親しまれる要素が必要だ。

カンボジアと旧ユーゴスラビアで、国連平和維持活動の総指揮を取り、都市と農村部の格差が激しい内戦の要因であると痛感した。カンボジアの都市は自らの問題を解決する必要がある。

【アジア太平洋都市サミット】94年に福岡市が第1回会議を主催して始まった。隔年開催で、96年の第2回会議は中国・広州市で開催、2000年の第4回会議は韓国・釜山市で開かれる。